

薬草園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2025年
4月1日
第170号



ニワウメ (バラ科)

温室の前の鉢植えで花が咲いています。学名が *Pururus japonica* と日本原産のように見えますが、実際は中国北部原産の落葉低木です。園内の自然植物区にあり、第37号で紹介したユスラウメとよく似ていますが、異なる種です。種子が郁李仁（イクリニン）、根が郁李根（イクリコン）という生薬となり、中医学では郁李仁が潤腸、利水を目的に、便秘、小便不利などに対して、郁李根が清熱、行気を目的に、止痛、小児発熱、積聚に対して使用するそうです。ただ、中医学で郁李仁湯というと、『聖濟総録』にある桑白皮、陳皮、茅根などと合わせた六味ですが、日本での郁李仁湯は『勿誤薬室方函口訣』にある紫蘇子、防已、青皮、大黄などと合わせた九味が一般的で、どちらも利水を目的に利用されますが、構成生薬が日中で大きく異なる事になります。

サンシキスミシ (スミシ科)

管理棟横、土壌改良中の第四圃場で、試験的に栽培しているものが、花を咲かせています。ヨーロッパ原産で、普通に道ばたや河原で野生しているのをよく見かける植物です。花がかわいいことから、本種から各種園芸植物が開発され、ビオラやパンジーの名で流通しています。ヨーロッパでは花を料理の飾りとして、地上部をサラダの食材、または茶外茶として利用する他、地上部を鎮咳、去痰、利尿を目的とした民間薬として利用してきました。中医学では、全草が三色堇（サンショクキン）という生薬となり、清熱解毒、止咳を目的に、湿疹、癬癩、咳嗽に煎じて利用するそうです。含有成分として環状ペプチドであるシクロチド類を含み、植物の防御物質としてられ、殺虫、抗菌活性が知られています。